

# 紙芝居 『困いやまのポコ』

困いやま森の会

イラスト・シナリオ：赤石千佳

1)



ここは「困いやまの森」

緑の旗が目印の、小さな森です。

そんな困いやまに ある日、誰かやってきたようです。

2)



ポコ「あの一、ぼく、隣り町の林からきました、  
ポコっています。誰かいませんか？」

\*ポコがいうと、上の方から返事が聞こえました。

ケラ「きみ、ここじゃあ、見ない顔だね。」

\*見上げてみると、小さな鳥が木を突ついていていました。  
(これは何ていうか鳥かわかるかな？)

ヒント：木を突つきます。

答えはキツツキの仲間：コゲラです。特徴はこの縞模様です)  
小鳥は言います。

ケラ「ぼくの名前は、ケラ。ポコは何しにきたの？」

ポコ「新しい住みかを探しているんだ。この森はどんなところ？」

ケラ「そうだなあ、いいところだよ。

でも、足ながのっぽがくるからなあ……。 (意味深に)」

\*そこへ、何かが近づいてくる音がします。

(足音：ドスン、ドスン～)

ケラ「きた！ 足ながのっぽだ！ 隠れろ！」

\*二人は慌てて、藪の中に隠れました。

半分開く

(ポコだけ表示)

ケラのところで全開



3)



\* 音はだんだん近付いてきます。

(足踏みをして音をたてる) ⇒ (あらわになる足)

\* ポコは小さな声で、ケラにいいます。

ポコ「なんて大きい！ あんな生き物見たことない！」

\* ケラも、ひそひそといいます。

ケラ「足ながのっぽは時々やってきて、木を動かしたり、  
何かよく分らない物を作っていくんだよ。」

\* ポコは、初めて見る足ながのっぽのことが、知りたくなりました。

ポコ「よし、付いていってみよう！」

\* ケラは怖がりましたが、

本当はケラも知りたくてしょうがないのです。

二人でこっそり、足ながのっぽに付いていってみました。

半分開く

(ポコ・ケラだけ表示)

足踏みのところで全開

4)



\* 足ながのっぽは、森の広場に向かっていきます。

そこには、足ながのっぽが沢山いて

オカリナやコカリナで、楽しそうに音楽会をしていました。

ポコとケラは、草陰からそっとみえています。

ポコ「ケラ、足ながのっぽって、きれいな鳴き声だね!

それに小さいのから大きいの、いろんなのがいる。」

ケラ「あれだけ大きいと僕らなんて一飲みで食べられちゃうよ。

ぼくは飛んで逃げられるけど、ポコは危ないかもしれないよ。」

\* ポコはすこし考えて、言いました。

ポコ「あれくらい大きくなれたら食べられなくてすむかもしれない。

ぼく、練習してみる。」



5)



\* ポコは離れたところへ行って、  
大きな緑の葉っぱを頭の上に乗せると・・・

ポコ「そいやさ、こらさ、  
どっこいしょ～！」

\* なんと！ポコは葉っぱで姿を変えてみせる”バケガク”が  
使えるのです。

ケラは、驚きました。

ケラ「すごい！ それなら、足ながのっぽの中にも、  
ばれないかもしれないよ！」

\* ポコは言いました。

ポコ「それじゃあ、本当にばれないか、やってみよう！」

少し開く  
(ポコだけ表示)  
バケたところで全開

6)



\*二人が戻ると、  
足ながのっぽは、木に登ったり、  
ロープにぶら下がって遊んでいました。  
ポコがこっそりまざってみても、誰も気づいていません。

ケラ「やった！成功だ！」

\*木の上で見ていたケラは、喜びました。  
すると、ひとりの足ながのっぽがポコに話しかけます。

足ながのっぽ

「きみ、おじさんがブランコ作ったから、遊んでみてごらん。」

\*ポコはブランコに乗ってみました。



7)



\*ぶ————ん　　ぶ————ん

ポコが気にいって、どンドンこぐと、

ひゅ~~~~~

なんと、バケガクの葉っぱが飛んでいってしまいました。

耳の形も、しっぽも、もとの姿に戻っていきます。

**ポコ「ああ！バケガクがとれちゃう！」**

\*そこへ、ぴゅ————っ、

ケラがすばやく飛びおりてきました。

8)



\* ケラが葉っぱを拾おうとしますが、

ケラ「あれ？どれがバケガクの葉っぱだっけ？！」

\*（急がないとポコが元の姿に戻ってしまいます、  
誰か教えてあげて！）

ケラ「あ、そっかこれか！」

\* ケラはバケガクの葉っぱをポコの頭に乘せました。  
とれてきたバケガクはぴたっと止まり、  
二人は急いで森の奥へ逃げ隠れました。

半分開く  
(テントウムシまで表示)  
後半に全開



9)



ポコ「あ～あぶなかった！ ケラ、ありがとう！」

ケラ「さっき、てんとう虫さんが教えてくれたんだ、  
あとでお礼いわなきゃ！」

\*（あれれ、さっき皆が教えてくれたのをてんとう虫さんと  
間違えてるみたい。）

ポコはいいました。

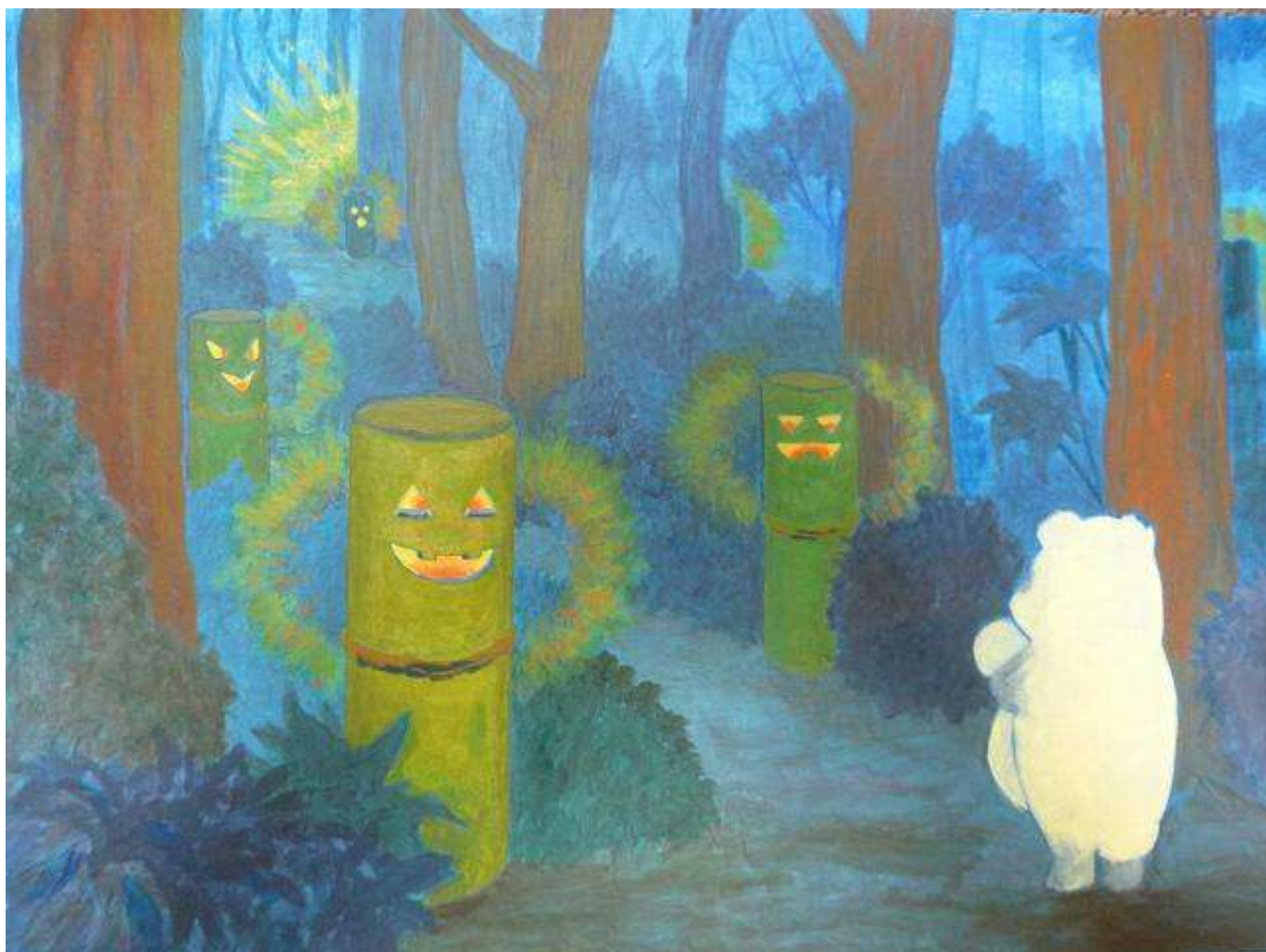
ポコ「足ながのっぽって、ブランコってやつを作ったり、  
不思議な生き物だね。」

\* ケラは木に生えていたキノコをとって、ポコにあげました。

ケラ「このきのこも、足ながのっぽが作ったみたいなんだ。  
怖いんだか、親切なんだかわからないよ。  
それにしても、ポコのバケガク 大成功だったね！」

\* ふたりはおしゃべりをしながらお腹いっぱい食べて、  
日が沈んできた頃、茂みの中で眠りました。

10)



\*そして夜になり、あやしく笑う光がポコを起こしました。

「おいでよ、おいで。面白いこと 始まるよ

光の道を たどっておいで」

\*光の道は、森の奥の、ひときわ明るいところへ  
続いているようです。

ケラはぐっすりと寝てしまっています。

ポコは、ひとりだけで、光の道をたどっていきました。



11)



\* 森の奥には足ながのっぽたちがいました。

ポコはバケガクを使って、傍にいとってみると、  
広げられた白い布に小さな虫たちが集まってきています。

ポコ「あの一、何、しているんですか？」

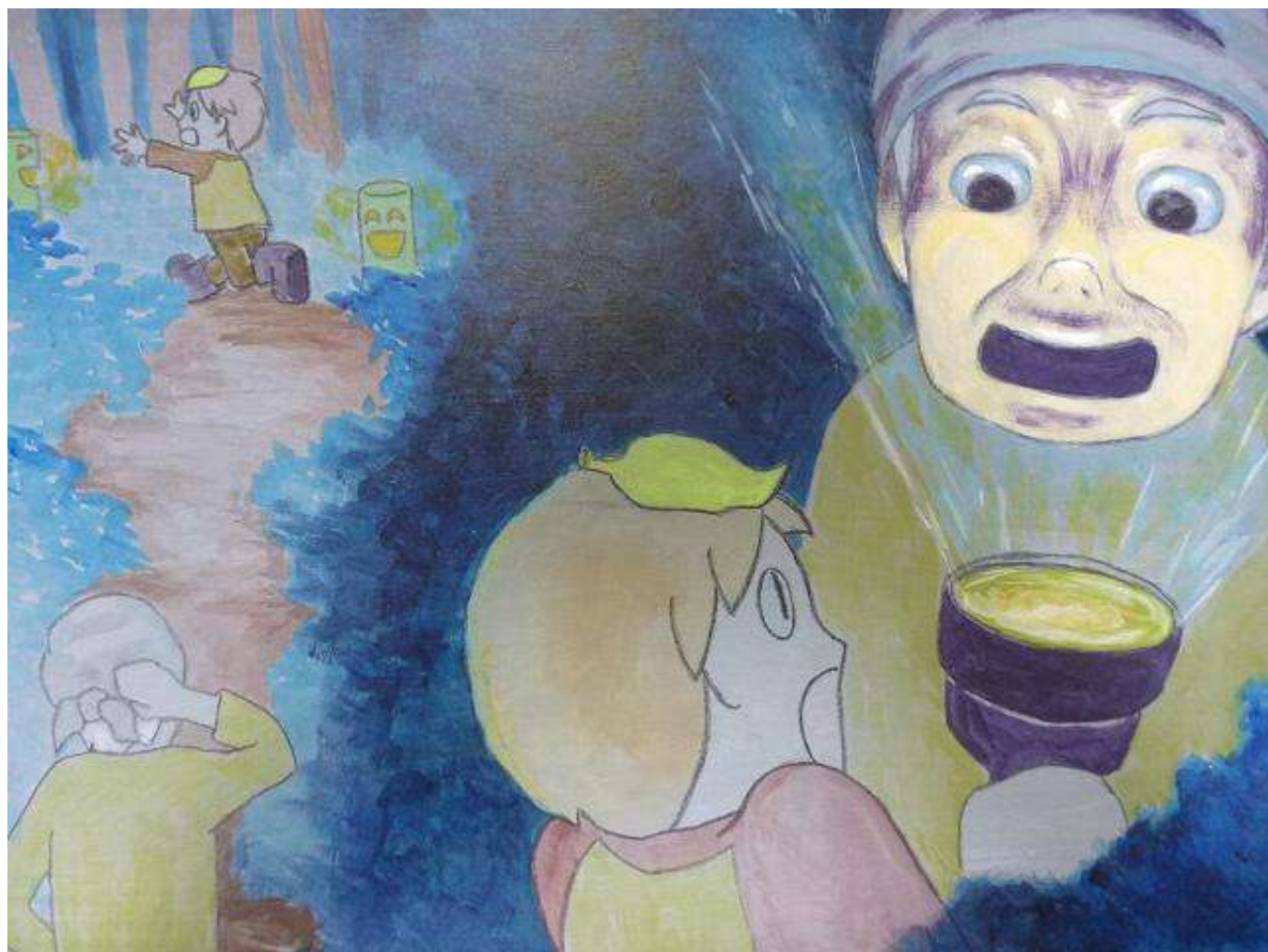
\* 足ながのっぽは応えました。

足ながのっぽ

「夜に隠れている虫を観察するんだよ。その虫は光が好きで  
白い布は光りやすいから、いい集まり場所になるんだ。

ほら、こんなふうにはライトをあてると・・・」

12)



ポコ「ひゃ—————!!!」

\*びっくりしたポコは森の奥へと逃げました。

足ながのっぼ

「ありゃー、やりすぎちゃったかなあ……

ごめんね～！」

\*足ながのっぼは、ポコに向かって言いましたが、

あっという間に、

ポコの姿は、暗い夜の森に見えなくなっていました。



13)



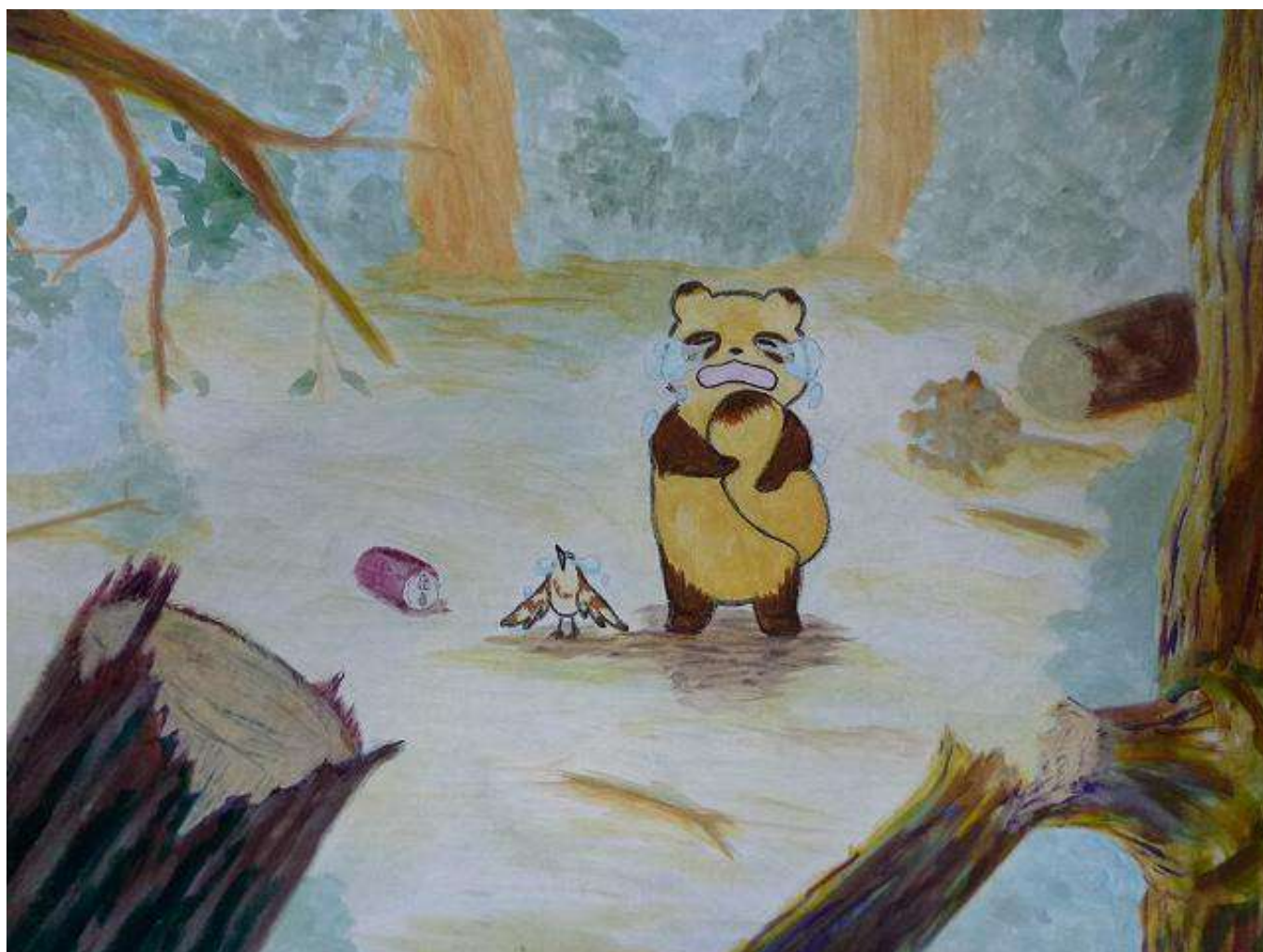
\* それからしばらく、強い大風の日が続きました。

ごうごう、ぎしぎし、と音を立てる森は危ないのです。

ポコとケラは、やぶに囲まれた穴ぐらで嵐がすぎるのを待ちました。

そして、風の音がやみ、静かになった朝・・・

14)



\*ふたりが穴ぐらから出ると、

倒れた木や、折れた枝で、森は傷ついていました。

ポコ「これじゃ誰も住めないよ・・・。」

ケラ「誰も森にこなくなっちゃうよ———！」

二人は悲しく泣きました。

すると、向こうから足音が聞こえました。

(足音～)



15)



足ながのっぽたちが、倒れかかった木を支え、  
飛んできたゴミを集めて、森を手当しています。  
ポコはバケガクを使って、足ながのっぽを手伝い、  
ケラも、折れた枝を運びます。  
皆で一生懸命、働きました。

16)



\*すると、暖かい光が入り、明るい囲いやまの森が戻ってきました。  
皆嬉しくなって、喜び、歌いました。

よかった よかった 囲いやま  
タヌキも 小鳥も 虫も お花も  
みんなが喜ぶ 楽しい森だ  
みんな仲良し うれしいな

\*そして、一人の足ながのっぽが言いました。

足ながのっぽ

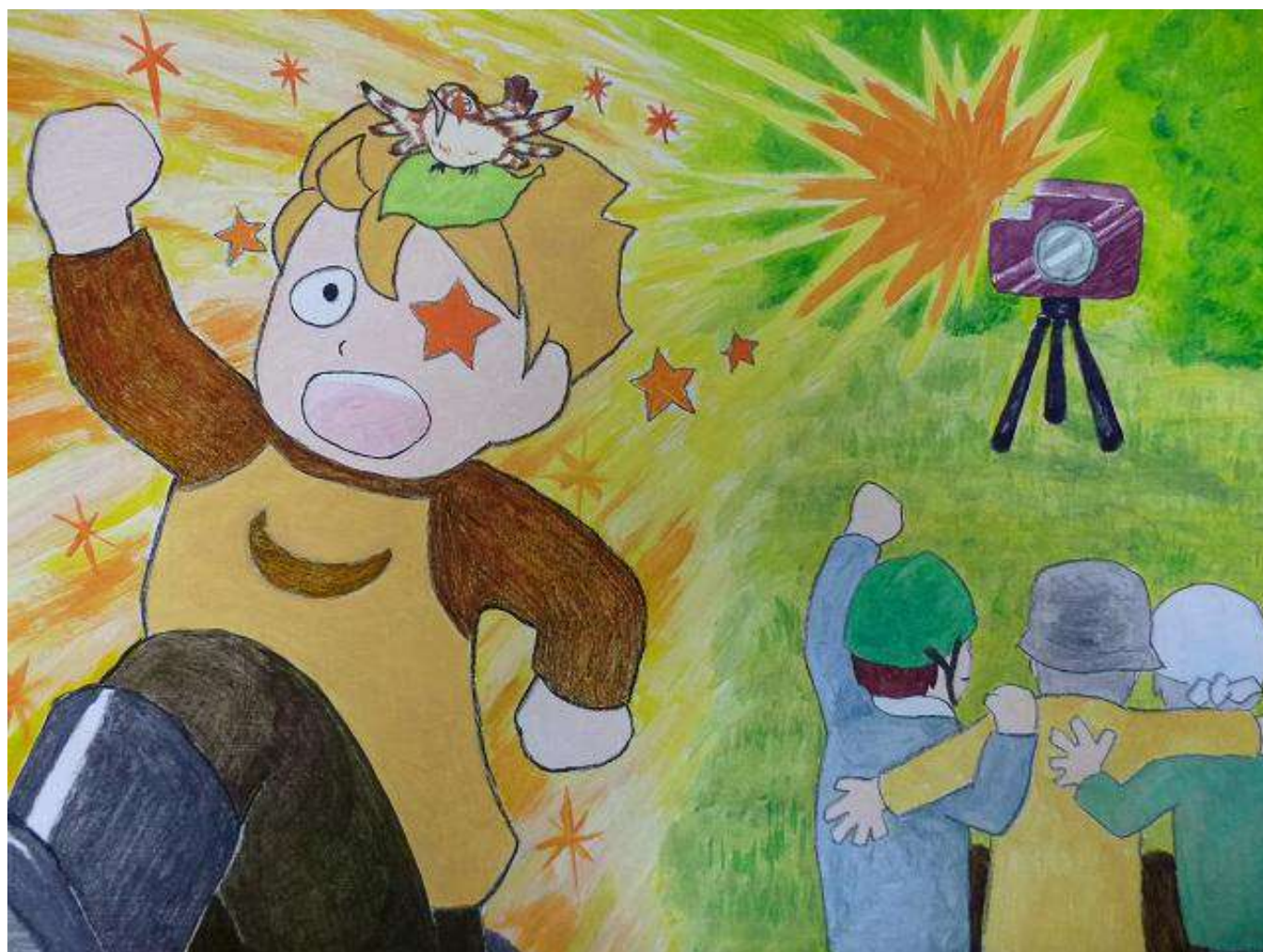
「そうだ、がんばった記念に、みんなで写真を撮りましょう。

はい、こっち向いてー」

\*ポコが言われた方へ向くと・・・



17)



\*ぴかっ (フラッシュ)

「わひゃ————!!!」

\*カメラの光にびっくりして、

ポコは また、逃げて行ってしまいました。

次はいつ、来るかな？

半分開く  
(カメラだけ表示)  
逃げるところで全開



### \*おしまい

○紙芝居のイラストを描いて、シナリオを作ってくれた方：赤石千佳さん

#### [会の紹介]

この会のマスコットキャラクターは「コゲラ」で、タヌキも見かけました。この森の整備を始めてから、9年になります。最初は背丈より高いササに覆われて、暗い森でしたが、通路や広場を整備して、清掃や下草刈りをしています。森はウグイスやコジュケイ、コゲラやシジュウカラなど、多くの生き物の生活の場となっています。夏には家族で参加する「森の楽校」、秋にはオカリナ・コカリナの音楽会、秋の虫の音を聴く会や夜の虫観察会（ライトトラップ）など、子どもたちの森体験を展開しています。都市に残された貴重な自然環境を守りつつ、市民に愛される森をめざしてゆきたいと考えています。

